

◎2020年 第67回日本栄養改善学会学術総会

演題「異物混入防止の取り組み」

【目的】

A病院で、異物混入のない安心・安全な食事を提供することが患者給食を提供している私たちの大きな使命である。そこで異物混入によるインシデントをなくすための対策に加えて、未然防止のために発生源となっている調理工程内の5S改善に取り組んだ。

【方法】

パート従業員も含めた全員のチームワークで次のような手順に沿って改善を行った。(1) 毎月の混入した異物を分析し、その発生源を突き止める。(2) 明らかになった異物を発生させない為の5S改善を実施する。(3) 2~3か月後に効果を確認する。(4) (2) → (3) を繰り返し行う。改善例：毛髪・ホコリに関しては、厨房に入る前の全身粘着ローラーがけ、厨房内の床の粘着ローラーがけ、更衣室の粘着ローラーがけを行った。繊維状のものに関しては、スポンジを定期的に新しいものに交換し、食器洗浄後に繊維の付着がないかをチェックした。付着があれば、その都度、朝礼時と連絡ノートによって注意を促し、コミュニケーションの強化をはかった。

【結果】

病院との連携が上手くいき異物混入件数は2018年度に16件あったが2019年度には6件になった。このような改善に取り組む中で会社の5Sモデル店舗に選出された。当初は5S活動についての知識や業務経験の少ないスタッフが多かったがモデル店舗に選出されたことが契機となり、一人一人が意識することで清掃が行き届き5Sの改善ができた。また問題解決に向け、全員で取り組む姿勢も徐々にできていった。

【結論】

(1) 従業員全員が一丸となって取り組むことで、各自の意識がより一層高まりチーム力が向上し、異物混入件数を減らすことができた。(2) 他店舗からモデル店舗として見学を受け入れる予定もあり、店舗従業員のモチベーションも上がっている。5S活動を定着させ、さらに5Sレベル4から最高の5へのレベルアップを目指す。

演題「冬季高血圧の頻度、身体検査所見、生活習慣病他因子の

特徴について ～健診と外来成績からの検討～」

【目的】

冬季の廊下、階段は 10～11℃とやや低い。冬季の血圧測定を行い夏季に比し血圧高値者の身体検査、生活習慣病他因子の特徴について検討した。生活習慣病外来でも同様に検討した。

【方法】

健診は本社社員、男性 36 名、年齢 54.3 歳、女性 41 名 42.5 歳。本年 1 月～3 月 (20℃) に自動血圧計で測定。夏季血圧と身体検査問診成績は昨年 6 月後半の健診 (25-28℃) 結果を使用。血圧は A 群：正常、B 群：正常高値、C 群：高値血圧、D1：高血圧 1、D2：高血圧 2、D3 群：高血圧 3 に分類。外来は夏, 7-8 月 (25-28℃), 冬 12-1 月 (20-22℃) で実施。

【結果】

夏 A, B、冬季のみ C、D 及び、収縮期 10、拡張期 5 以上夏に比し冬季増加を冬季高血圧とした。外来では冬季高血圧は全員、降圧薬を開始か増加。冬季高血圧は健診で (冬：135/88、夏：115/62) 32 名にみられ、全体の 41.6% (17 人; 47.2% / 15 人; 36.6%、男/女)、男性、女性で有意に高頻度。外来では、服薬下に冬季高血圧、(冬：131/73、夏：123/69) 22 名、3 割 (全体) に見られ、男で高頻度 (36%)、女で有意差なし。特徴は、健診で BMI (男、24.1)、ウエスト (男、83.9 cm)、喫煙、尿酸、ALT、AST、 γ -GTP、Hb、アポ B が季節変動なし群に比し有意に高値。外来では冬の A 群に比し、CD 群で年齢、BCD 群で体脂肪率が有意に高値。特徴はメタボ因子と関連し、インスリン抵抗性 (善玉作用低下、悪玉作用過剰)、脂肪肝傾向などが想定される。冬季高血圧は、高齢者、男性に高頻度、女性では少なく、女性ホルモンによるインスリン感受性維持が、喫煙は内皮細胞障害など、インスリン感受性との関連が注目される。

【結語】

1. 冬季高血圧は健診 41.6%、外来 30%、男性に高率 (健診 47.2%、外来 36%) であり、女性 (健診：36.6%、外来：ns) で低頻度であった。2. 特徴は BMI、体脂肪率、ウエストなどインスリン抵抗性因子と関連し、喫煙も関連した。